

令和 2 年 5 月 18 日現在

機関番号：32653

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K08884

研究課題名(和文) リーダーシップを発揮し継続就労する女性医師のキャリア形成とエンプロイアビリティ

研究課題名(英文) Career development and employability of female doctors with leadership

研究代表者

富澤 康子 (Tomizawa, Yasuko)

東京女子医科大学・医学部・助教

研究者番号：00159047

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：我が国では女性医師の社会活用を促すことが急務である。今後の女性医師は自分の得意技能を生かして自身のエンプロイアビリティを高め、雇用される能力が問われる時代になることが期待されてきている。そのためには女性医師は継続就労だけでなく、キャリア形成し、リーダーシップを発揮して活躍できなくてはならない。本研究課題では指導的立場の女性医師の成功事例を集め、影響を及ぼした主要な因子および条件を検討した。妊娠・出産を経て離職することなく、仕事と子育てを両立しながら認定医・専門医を取得し、リーダーシップを発揮し、女性医師の指導者として活躍できるように教育環境を整えることを社会に働きかけることを目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の医学部には女性教授がほとんどいない。現在、女性医師の教授はリーダーシップを発揮し、若い医師を導いている。医療現場では長時間労働が常態化している。女性医師が仕事と家庭生活を両立して、不規則な勤務体系であっても、緊急呼び出しに対応し、泊まりがけの学会参加、妊娠・出産・育児を経て、責任ある仕事を任せてもらえ、継続就労することは困難である。リーダーシップを発揮して活躍する女性医師を成功事例として必要な条件を調査することは今後役立つと考えた。

研究成果の概要(英文)：In Japan, there is an urgent need to promote the social utilization of female doctors. Female doctors must continue to work without leaving practice, and must be able to develop career path, and show leadership. For that, career development and employability of female doctors, are essential.

研究分野：ジェンダー

キーワード：女性医師 外科 働き方改革 男女共同参画 長時間労働 時間 ストレス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の医師国家試験合格者に占める女性割合は3割を超え、近年女性医師が増加傾向にある。女性医師が指導的立場で活躍することがますます期待されている。しかし、Global Gender Gap Report 2020によると日本は153カ国中121位で、政治参加は144位と極めて低く、日本で女性が社会的に活躍するには多大な問題が山積している。医師が不足している状況下で、増加している女性医師が医療現場で、今後さらに活躍することが必要であり、労働環境ばかりでなく教育環境を整備することは大きな課題である。

我が国では現有資格者である女性医師の社会活用を促すことが急務である。今までは支援側から手を差し伸べ、ソフトとハードの整備を試みた。院内保育園、女性医師バンク、時短制度、他も含まれる。これは女性医師が出産・育児を経ても職場を去らなくてすむようにといった「定着」の推進であり、「活用」の推進にはなっていなかった。女性医師には、結婚・妊娠・出産・育児というライフイベントを迎える時期と、専門医取得などの時期がかさなる。育児中であると、仕事量、その時期には仕事を減らすことを余儀なくされ、仕事へのコミットメントが下がることになる。日本では外科医は常勤医で、当直でき、夜中の緊急に対応できなければ術者にしてもらえない。離職・休職し、脱落すると戻れないが、離職・休職期間を活用して自身を高めることが可能であると考えた。本研究課題の成果により、女性医師の向上心につながり、今までとは違った切り口で問題解決を目指しており、指導的立場の女性医師により、キャリア形成の教育を十分に受け、継続就労を確実なものとし、良質な医師の労働力を維持でき、日本の医療の崩壊を食い止めることが可能にできると考えた。

2. 研究の目的

本邦では女性医師の7割は男性医師と結婚する。近年、若い女性医師が増加しているが、仕事と家庭の両立が難しく、女性医師の7割が離職している。さらに、女性医師は復職しにくく、認定医・専門医の取得率は男性医師に比べて低い。この原因に、女性医師の家事時間の多さの他に、モチベーションの低さが指摘されている。

今までは支援側から手を差し伸べたが効果が少なく、今後は女性医師が自分の得意技能を生かして自身のエンプロイアビリティを高め、継続的に雇用される能力を身につけることも考えなければ改善しないと考えた。継続就労できるばかりでなく、キャリア形成しリーダーシップを発揮し活躍する女性医師の成功事例から必要であった主要な因子および条件を求め、妊娠・出産を経て離職することなく、仕事と子育てを両立しながら継続就労し、認定医・専門医を取得し、リーダーシップを発揮し、活躍できるように、若い女性医師に指導的立場の医師が自分という成功事例を示す。本研究課題の期間中には成功要因を抽出し、女性医師のモチベーションの向上を促進するために“Pave a road (後に来る人のために道を舗装)”する提案を形にしたいと考えた。

3. 研究の方法

本研究は研究代表者が1名で行い、研究期間は3年間とした。基本的な報収集、日本医学会分科会の女性医師支援アンケート調査、継続就労基本調査、日本外科学会の外科医を対象とした生活の質を調査など、また、活躍するキャリア形成した女性医師のリーダー的役割を明らかにするための調査を行い、リーダーシップ、キャリアパスに関する教育講座、研修の調査そして、全体の研究を取りまとめる。本研究では女性医師の効率的なエンプロイアビリティとキャリア形成にまとを絞り、調査を行い、データを分析する。女性医師のきめ細かい就業支援施策を見出すことで、可能な限り具体的かつ有効な施策を導出することを計画した。

- 【1】 基本調査 (文献およびWeb)
- 【2】 日本医学会分科会の女性医師支援および男女共同参画状況調査: 第3回目の医学会分科会の学会(123学会)の調査
- 【3】 継続就労対策調査: 具体的な支援策にはハードとソフトの整備が有る。種類には、勤務時間・勤務制度(時短、ワークシェアリング、フレックス制、複数主治医制、病院診療医)、育児支援(院内保育、病児保育、おとまり保育、搾乳室、ファミリーサポート、ベビーシッター補助券)、キャリア支援・復職支援(メンター制度、キャリア相談窓口、交流会)、会議・カンファレンス・講演会参加支援(Skype、テレビ会議システム)、教育・啓発活動(セミナー)、他がある。同僚が支援しやすい給与制度、女性医師支援についての組織的取り組みの見直しなども重要である。
- 【4】 女性のリーダーシップ、キャリアパスに関する講演会: 日本女性外科医会(JAWS)の勉強会(<http://jaws.umin.jp/events.html>)では、本研究課題の成果報告の一部を本研究課題の期間中、毎年1回2月に報告した。
- 【5】 女性医師の継続就労調査: 就業構造基本調査の個票を用いて、女性医師の離職についての調査を試みた(ところが、本調査には女性医師が少なかった。「小1の壁」の前に離職してしまうことが示唆された。
- 【6】 育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス調査結果: 男女の外科医の仕事とプライベートのストレスをアンケート調査した。
- 【7】 三師調査における医師の個票調査: 外科医は減っていることが指摘されている。医師免許をとった若い医師において、外科の選択率と定着率を三師調査から解析した。

4. 研究成果

成果論文

1. 女性医師の活躍のためにはロールモデルの知識・経験が役に立つ[1]。日本ではロールモデルがない、とかロールモデルがいても自分に当てはまらないというが、自分に当てはまる部分を集めて理想のロールモデルを作り上げることが提案されている[2]
2. 「勤務医の現職からの離職傾向-就業構造基本調査から」[3]をまとめた。就業構造基本調査では女性医師の数が少なく、離職の傾向がつかめなかった。そのため、三師調査の個票データの使用を申請した。三師調査のうち、医師を分析し、外科医の早期キャリアにおける選択率と定着率を調べAmerican College of Surgeons Clinical Congress 2018で“Selection of and retention in surgical specialty during early career in Japan”を報告した。現在論文を投稿中である。
3. 日本医学会分科会における女性医師支援に関する3回目の調査を行い、回答率は100%（123学会/123学会）あった[4]。男女共同参画は進んではいたが、さらなる加速が必要であると思われた。
4. 日本外科学会の会員を対象としたアンケート調査のサブ解析を収入、結婚、子育てについて行った。結婚すると男性外科医は収入が増えるのに、反対に女性外科医は収入が減った。また、男性外科医は子供の数が増えると収入が増えるのに、反対に女性外科医は子供の数が増えると収入が減った[5]。
5. 日本外科学会の全国外科医の仕事と生活の質の結果報告では、性別と子供の有無で4群（男性子供なし、男性子供あり、女性子供なし、女性子供あり）に分けたところ、女性子供有り群は他の群に比べて労働時間が短かった[6,7]。
6. 女性外科医が子育てしながら、臨床に従事するとき、子供の急な発熱でのこどもの一時預け先探しのストレス値は高く、経験率も高い[8]。
7. 子育て中の看護休暇の日数が気になり、保育園児の病欠の日数を3箇所の保育園で調査した[9]。また女性外科医が教育・研究に従事するとき、学会参加は欠かせない。学会託児所は女性医師が学会参加するために、欠かせないことを示した。[10]。

参考論文

1. 医療安全のためのシミュレーション教育は欠かせない。特に人工心肺を用いた体外循環の事故は一度事故がおこると、患者が死亡する、あるいは重篤な後遺症を残すことがおきるため、普段からの訓練が必要である[11][12]。
2. 外科手術時に止血目的に電気メスを使用する。その煙が外科医の健康被害を起こす可能性が示唆されたため、文献調査を行った[13]。現在、臨床現場で測定中である。

文献

- 1 Yorozuya K, Kawase K, Akashi-Tanaka S, Kanbayashi C, Nomura S, Tomizawa Y. Mentorship as Experienced by Women Surgeons in Japan. *World J Surg* 2016;40:38-44
- 2 Tomizawa Y. Role Modeling for Female Surgeons in Japan. *Tohoku J Exp Med* 2019;248:151-158
- 3 富澤康子, 宮崎悟, 西田博, 上塚芳郎. 勤務医の現職からの離職の傾向-就業構造基本調査から. *東女医大誌* 2016;86:215-222
- 4 野村幸世, 富澤康子, 大津洋, 小川朋子, 柴崎郁子, 島田光生, 竹下恵美子, 花崎和弘, 葉梨智子, 山下啓子, 明石定子, 山内英子, 岩瀬弘敬, 前田耕太郎, 中村清吾. 日本医学会分科会における女性医師支援 2015年 第3回アンケート調査. *日外会誌* 2017;118:668-672
- 5 Okoshi K, Nomura K, Taka F, Fukami K, Tomizawa Y, Kinoshita K, Tominaga R. Suturing the gender gap: Income, marriage, and parenthood among Japanese Surgeons. *Surgery* 2016;159:1249-1259
- 6 Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K. Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part 1: Working style. *Surg Today* 2018;48:33-43
- 7 Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K. Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part. 2: personal life. *Surg Today* 2018;48:308-319
- 8 富澤康子, 萩原牧子, 野村幸世, 明石定子, 柴崎郁子, 葉梨智子, 山内英子, 中村清吾. 育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス:働くドクターストレス調査結果から. *東女医大誌* 2020;90:30-37
- 9 野原理子, 富澤康子, 斎藤加代子. 保育園児の病欠頻度に関する研究. *東女医大誌* 2017;87:146-150
- 10 西山圭子, 小森万希子, 立石実, 松本卓子, 富澤康子. 学会託児所の設置に役立つ情報と

今後の課題. 東女医大誌 2017;87:165-169

- 11 富澤康子.人工心肺トラブルシューティングにおけるシミュレーション実践と教育の重要性. Clin Eng 2019;30:873-879
- 12 百瀬直樹, 徳嶺朝子, 富澤康子. 人工心肺トラブルシミュレータの制作. 医療機器学 2017;87:495-500
- 13 Okoshi K, Kobayashi K, Kinoshita K, Tomizawa Y, Hasegawa S, Sakai Y. Health risks associated with exposure to surgical smoke for surgeons and operation room personnel. Surg Today 2015;45:957-965

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 14件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 富澤 康子、萩原 牧子、野村 幸世、明石 定子、柴崎 郁子、葉梨 智子、山内 英子、中村 清吾	4. 巻 90
2. 論文標題 育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス：働くドクターストレス調査結果から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京女子医科大学雑誌	6. 最初と最後の頁 30～37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24488/jtwmu.90.1_30	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Okoshi K, Kono E, Tomizawa Y, Kinoshita K.	4. 巻 0
2. 論文標題 Can rectal washout reduce anastomotic recurrence after anterior resection for rectal cancer? A review of the literature.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Surgery Today	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tomizawa Yasuko	4. 巻 248
2. 論文標題 Role Modeling for Female Surgeons in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 151～158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1620/tjem.248.151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tomizawa Y, Sampei N, Inoo S.	4. 巻 2
2. 論文標題 Predicting Influenza Outbreak in One Nursery and in the Community Using the Nursery and School Absenteeism Surveillance System	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tokyo Women's Medical University Journal	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24488/twmuj.2018009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川瀬和美, 前田耕太郎, 岩瀬弘敬, 野村幸世, 小川朋子, 柴崎郁子, 島田光生, 田口智章, 竹下恵美子, 富澤康子, 花崎和弘, 葉梨智子, 山下啓子, 中村清吾, 富永隆治	4. 巻 119
2. 論文標題 外科医の働き方改革 現状と改善方策 外科医の意識と働き方改革 外科における男女共同参画はどうあるべきか?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日外会誌	6. 最初と最後の頁 705-708
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Komori Makiko, Samejima Yuriko, Okamura Keiko, Ichikawa Junko, Kodaka Mitsuharu, Nishiyama Keiko, Tomizawa Yasuko	4. 巻 33
2. 論文標題 Effects of crystalloids and colloids on microcirculation, central venous oxygen saturation, and central venous-to-arterial carbon dioxide gap in a rabbit model of hemorrhagic shock	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Anesthesia	6. 最初と最後の頁 108 ~ 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00540-018-2594-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富澤康子, 萩原牧子, 野村幸世, 小川朋子, 柴崎郁子, 島田光生, 竹下恵美子, 花崎和弘, 葉梨智子, 山下啓子, 明石定子, 山内英子, 岩瀬弘敬, 田口智章, 中村清吾	4. 巻 120
2. 論文標題 女性外科医のキャリアパス 育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス 働くドクター ストレス調査結果から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日外会誌	6. 最初と最後の頁 112-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawase K, Nomura K, Tominaga R, Iwase H, Ogawa T, Shibasaki I, Shimada M, Taguchi T, Takeshita E, Tomizawa Y, Nomura S, Hanazaki K, Hanashi T, Yamashita H, Kokudo N, Maeda K	4. 巻 48
2. 論文標題 Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part 1: Working style	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Surg Today	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00595-017-1556-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawase Kazumi, Nomura Kyoko, Tominaga Ryuji, Iwase Hirotaka, Ogawa Tomoko, Shibasaki Ikuko, Shimada Mitsuo, Taguchi Tomoaki, Takeshita Emiko, Tomizawa Yasuko, Nomura Sachiyo, Hanazaki Kazuhiro, Hanashi Tomoko, Yamashita Hiroko, Kokudo Norihiro, Maeda Kotaro	4. 巻 48
2. 論文標題 Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part. 2: personal life	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Surg Today	6. 最初と最後の頁 308~319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00595-017-1586-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okoshi K, Minami T, Kikuchi M, Tomizawa Y	4. 巻 243
2. 論文標題 Musical Instrument-Associated Health Issues and Their Management	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.243.49	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西山圭子, 小森万希子, 立石実, 松本卓子, 富澤康子	4. 巻 87
2. 論文標題 学会託児所の設置に役立つ情報と今後の課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東女医大誌	6. 最初と最後の頁 165-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24488/jtwmu.87.6_165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 百瀬直樹, 徳嶺朝子, 富澤康子	4. 巻 87
2. 論文標題 【医療機器シミュレーション教育の最新の現状と課題】 人工心肺トラブルシミュレータの制作	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医療機器学	6. 最初と最後の頁 495-500
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村幸世, 富澤康子, 大津洋, 小川朋子, 柴崎郁子, 島田光生, 竹下恵美子, 花崎和弘, 葉梨智子, 山下啓子, 明石定子, 山内英子, 岩瀬弘敬, 前田耕太郎, 中村清吾	4. 巻 118
2. 論文標題 日本医学会分科会における女性医師支援2015年 第3回アンケート調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日外会誌	6. 最初と最後の頁 668-672
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野原理子, 富澤康子, 斎藤加代子	4. 巻 87
2. 論文標題 保育園児の病欠頻度に関する研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東女医大誌	6. 最初と最後の頁 146-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24488/jtwmu.87.5_146	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okoshi, K. Nomura, K. Taka, F. Fukami, K. Tomizawa, Y. Kinoshita, K. Tominaga, R.	4. 巻 159
2. 論文標題 Suturing the gender gap: Income, marriage, and parenthood among Japanese Surgeons	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Surgery	6. 最初と最後の頁 1249-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.surg.2015.12.020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yorozuya, K. Kawase, K. Akashi-Tanaka, S. Kanbayashi, C. Nomura, S. Tomizawa, Y.	4. 巻 40
2. 論文標題 Mentorship as Experienced by Women Surgeons in Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 World J Surg	6. 最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00268-015-3245-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富澤康子 宮崎悟 西田博 上塚芳郎	4. 巻 86
2. 論文標題 勤務医の現職からの離職の傾向 - 就業構造基本調査から -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東京女子医科大学雑誌	6. 最初と最後の頁 215-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川瀬和美 前田耕太郎 富永隆治 岩瀬弘敬 小川朋子 柴崎郁子 島田光生 田口智章 竹下恵美子 富澤康子 野村幸世 花崎和弘 葉梨智子 山下啓子 國土典宏 萱間真美 日本外科学会男女共同参画委員会	4. 巻 117
2. 論文標題 外科医の待遇 明るい未来のために 外科医が仕事と生活を健全に送るために外科学会や病院、我々は何をしたらよいのか? 「全国外科医仕事と生活の質調査」自由記載内容分析より	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本外科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 452-455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富澤康子	4. 巻 59
2. 論文標題 【女性医師とワーク・ライフ・バランス】 第4次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方 (素案)から女性医師のワーク・ライフ・バランスとキャリア形成を考える	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 整形・災害外科	6. 最初と最後の頁 269-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富澤康子	4. 巻 117
2. 論文標題 理想の男女共同参画を目指して 外科を選択した女性医師のキャリア形成とワークライフバランス	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本外科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 22-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Kayo Fukami, Yasuko Tomizawa
2. 発表標題 The potential impact of a pending labor law on young doctors in Japan: an analysis of national microdata from biennial government surveys (1996-2016)
3. 学会等名 An International Association for Medical Education 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kayo Fukami, Kae Okoshi, Yasuko Tomizawa
2. 発表標題 The systematic discrimination of female applicants by Japanese medical schools: A review analysis
3. 学会等名 World Congress of Surgery 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 特別発言 女性外科医が未来の臨床外科医療を救うために
3. 学会等名 第81回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 私の留学経験 行く前にやっておくべきこと、現地で気をつけるべきこと
3. 学会等名 第81回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 日本外科学会の外部団体 日本女性外科医会の取り組み
3. 学会等名 第56回日本リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本卓子, 富澤康子, 宮崎悟, 上塚芳郎.
2. 発表標題 若手医師の専門領域選択の経時的変化.
3. 学会等名 第119回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川瀬和美, 野村恭子, 田口智章, 野村幸世, 明石定子, 小川朋子, 柴崎郁子, 島田光男, 竹下恵美子, 富澤康子, 花崎和弘, 葉梨智子, 山内英子, 山下啓子, 中村清吾,
2. 発表標題 日本外科学会男女共同参画委員会. 女性外科医の妊娠出産の現状と問題点、改善点は何か.
3. 学会等名 第119回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大越香江, 木下浩一, 松本久子, 森島敏隆, 富澤康子, 萬谷京子, 永井美江, 石川明子, 増田純一.
2. 発表標題 サージカルスモークが手術室勤務者に与える健康被害に関する調査.
3. 学会等名 第119回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 日本外科学会の外部団体 日本女性外科医会の取り組み
3. 学会等名 第93回日本感染症学会学術講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富澤康子, 中村清吾, 田口智章, 野村幸世, 明石定子, 小川朋子, 柴崎郁子, 島田光生, 竹下恵美子, 花崎和弘, 葉梨智子, 山内英子, 山下啓子, 萩原牧子
2. 発表標題 女性外科医のキャリアパス 育児中の日本外科学会会員の仕事とプライベートのストレス 働くドクターストレス調査結果から
3. 学会等名 第118回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川瀬和美, 前田耕太郎, 富永隆治, 岩瀬弘敬, 野村幸世, 小川朋子, 柴崎郁子, 島田光生, 田口智章, 竹下恵美子, 富澤康子, 花崎和弘, 葉梨智子, 山下啓子, 中村清吾.
2. 発表標題 外科医の働き方改革:現状と改善方策 外科医の意識と働き方改革 外科における男女共同参画はどうあるべきか?
3. 学会等名 第118回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomizawa Y, Miyazaki S, Matsumoto T, Uetsuka Y
2. 発表標題 Selection of and Retention in Surgical Specialty during Early Career in Japan
3. 学会等名 American College of Surgeons, Clinical Congress 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 外科医の考え方を变えて働き方を変える提案：日本の女性医師支援策の修正と OECD 加盟国の働き方の知恵に学ぶ
3. 学会等名 第80回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野原理子, 富澤康子, 斎藤加代子.
2. 発表標題 就労女性の育児支援のための保育園児の病欠日数に関する研究
3. 学会等名 第21回就労女性健康研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomizawa Y
2. 発表標題 "Modern day mentorship in an expanding world" Remote Role Modeling: A New Concept in an Expanding World
3. 学会等名 47th World Congress of Surgery (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 日本人工臓器学会の男女共同参画：女性研究者が活躍するために
3. 学会等名 第55回日本人工臓器学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 人工臓器研究：理想と現実
3. 学会等名 第55回日本人工臓器学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富澤康子
2. 発表標題 女性外科医が育児・介護と仕事を 両立するための課題
3. 学会等名 第79回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川瀬和美 前田耕太郎 富永隆治 岩瀬弘敬 小川朋子 柴崎郁子 島田光生 田口智章 竹下恵美子 富澤康子 野村幸世 花崎和弘 葉梨智子 山下啓子 國土典宏
2. 発表標題 外科医の待遇 明るい未来のために 外科医が仕事と生活を健全に送るために外科学会や病院、我々は何をしたらよいのか?
3. 学会等名 第116回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大越香江 野村恭子 高史明 深見佳代 木下浩一 富澤康子 富永隆治
2. 発表標題 私、女性外科医やってます！ 私のスタイル紹介 外科医の年収と家族構成における男女格差 女性外科医はキャリアと何を引き替えにしているのか
3. 学会等名 第78回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 富澤康子 日本外科学男女共同参画委員会
2. 発表標題 好きな仕事を続ける 各領域の取り組み、今できること 外科を選択する女性医師が増えている 継続就労とキャリア形成で今できること
3. 学会等名 第44回日本救急医学会総会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----